



編集・発行／一般財団法人
大阪国際児童文学振興財団
〒577-0011
東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL 06(6744)0581 FAX 06(6744)0582

<http://www.iiclo.or.jp/>

「財団」の一年

理事長 宮川健郎

私が大阪国際児童文学振興財団理事長に就任したのは2015年7月1日付です。ようやく1年、財団の仕事をはじめ経験したことになります。

最初の仕事は、理事長に選定された理事会への出席でしたが、ちつとも形式的な会議でないことに、まず驚かされました。その印象はその後変わりませんが、財団の理事会や評議員会では、いつでも、必要な事柄について、ずいぶん率直で建設的な議論が交わされます。財団の役員は、ふだんは大阪府の教育委員会、図書館、学校現場、子ども文庫、出版社などで仕事をしている人たちです。作家や研究者もいます。それぞれの仕事を背景とする発言は、一財団の運営をこえた、子どもと子どもの本の未来にかかわるもので、会議は、新しい情報が飛び交う学びの場になります。私は、この仲間に加えてもらった喜びを感じています。

そして、秋、11月には、金蘭会との共催で、「第15回国際グリム賞」の授賞式が行われました。受賞者は、カナダのペリー・ノーデルマンさん。「わが著『絵本論』を超えてー絵本と絵本研究の過去・現在・未来」と題して講演もしてください、身近にお話を聞くことができました。

春、2016年3月には、「第32回日産 童話と絵本のグランプリ」の表彰式に出席しました。今回の会場は



横浜の日産グローバル本社でしたが、表彰式に先立って、選考委員による受賞者への実作指導が行われました。これは、毎回行われるものですが、新しい創造の芽を育てようという、あたたかい時間でした。表彰式やそのあとのパーティーでは、長年にわたってこの事業を支援してくださっている日産の皆さんの行き届いた配慮をいろいろな場面で感じたのでした。

そのほか、海外から招聘した講師の講演会やいろいろな講座・イベントの実施、子ども本に関するインターネットサイトの充実、研究活動や紀要の編集と発行、メルマガジンの発行、出版社等からの寄贈資料の受け入れなどなど、財団は、休みなく動いています。いつもは東京で暮らしている私のパソコンには、財団事務局から毎日のように連絡や報告のメールが届きます。メールでは話し足りない気もちが募ったころによく、次の会議や行事があつて、私は、勇んで大阪に向かいます。

取り巻く環境が激変するなかで、財団の体制を新たに、再出発してから6年余りが経過しました。三宅興子前理事長や役員、スタッフのおかげで、財団の運営は、何とか軌道に乗っています。皆様には、さらなるご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。なにとぞ、よろしくお願いたします。

第15回国際グリム賞 カナダのペリー・ノーデルマン氏が受賞

国際グリム賞は一般財団法人金蘭会および大阪府立大手前高等学校同窓会金蘭会との共催で、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に対し、隔年で贈られる賞です。

第15回の27年度は、カナダ・ウィニペグ大学のペリー・ノーデルマン博士が受賞され、授賞式と記念講演会を行いました。

日時：平成27年11月21日（土）
13時30分～16時30分
場所：大阪国際交流センター
受賞者：ペリー・ノーデルマン博士
演題：わが著『絵本論』を超えてー絵本と絵本研究の過去・現在・未来

通訳：松下宏子さん
（関西大学ほか非常勤講師）
参加者：70人

〈授賞理由〉
ペリー・ノーデルマン博士は、国際的な児童文学および絵本の優れた研究者です。

主要著書の一冊である『絵本論』（1988）は、絵本研究の先進的な基礎文献として国際的に高い評価を得ています。また、『児童文学の喜び』（第二版1996）は大学における児童文学研究の教科書として名高く、中国、台湾、韓国で翻訳されています。

加えて、英語圏の代表的な児童文学研究誌『児童文学協会誌』等の編集を行うと同時に、児童文学理論に関わる論文や書評を数多く寄稿してきました。

カナダでは、1968年から37年間ウィニペグ大学文学部で教鞭をとり、多くの研究者を育

成しました。
また、児童文学作家でもあり、12冊の著書があります。

〈講演の概要〉

絵本研究の先進的な基礎文献である自著『絵本論』の概要を具体的な絵本を例示して紹介し、もし、「百分が今『絵本論』を書く」とすれば、「という想定のもと、絵本に見られるマンガ的な手法や電子書籍と絵本の関わりについて、多くの画像を示しながら語られました。具体的な画像によって、古典的な絵本から現代の絵本までの変遷を視覚的にとらえることができ、身近な絵本を研究的な視点で考えることができる講演会でした。



第15回国際グリム賞 贈呈式

*11月28日（土）には、日本イギリス児童文学会・JBBY・当財団の共催で、「幼子のためのアリス」子ども部屋のアリスほか、ルイス・キャロル作「不思議の国のアリス」簡易版にまつわるお話」（通訳：前沢明枝）と題した講演会が、川村学園女子大学で行われました。

イギリスの絵本作家
エミリー・グラヴェットさん
来日

現代イギリスの代表的な絵本作家エミリー・グラヴェットさんをお招きして、講演会と子ども向けワークショップを開催しました。

〈国際講演会〉

「イギリスの絵本作家エミリー・グラヴェットー絵に生きる」
絵本という形態を知悉し、仕掛けを駆使して新しい絵本を作り続けているエミリー・グラヴェットさんが高校卒業後の流浪生活を経て絵本作家になるまでの軌跡と、「オオカミ」「もっかい」などの作品制作過程を、画像を使いながら講演されました。

開催日：平成28年2月27日（土）
場 所：大阪府立中央図書館 多目的室
通 訳：松下宏子さん
（関西大学ほか非常勤講師）

イギリスの絵本作家
エミリー・グラヴェットさんと
絵本をつくりました！

グラヴェットさんが子どもたちに絵本の創作方法を紹介した後、子どもたちが「もし、こわいものがあらわれたら」というテーマで絵本を作りました。



ワークショップ

「イギリスの絵本作家
エミリー・グラヴェットさんと絵本をつくらう！」

開催日：平成28年2月28日（日）
場 所：大阪府立中央図書館 多目的室
参加者：小学生27人
主 催：国立国会図書館 国際子ども図書館・大阪府立中央図書館・当財団

参加者：82人
主 催：国立国会図書館 国際子ども図書館・大阪府立中央図書館・当財団

*エミリー・グラヴェット招聘事業は、左記の各社からご支援をいただきました。
近鉄グループホールディングス株式会社



サントリーホールディングス株式会社
パナソニック株式会社
株式会社富士通システムズ
アプリケーション&サポート
ムサシ・アイ・テクノ株式会社
○講演会、ワークショップの報告集を販売しています（1000円・税別）。

子どもの本の展示イベント
「世界の国からこんにちは：
70年万博と世界の絵本展」

1970年万博に参加した77か国の中から、日本で翻訳絵本が出版されている国を中心に約50か国の絵本（大阪府立中央図書館 国際児童文学館所蔵、約1000点を当時のパンフレット等とともに展示し、世界のあそびコーナー、「行ってみたいこんな国」メッセージコーナーなども設置しました）

開催日：平成27年7月11日（土）～7月26日（日）
場 所：万博記念公園内 EXPO'70パビリオン
主 催：当財団、一般社団法人関西環境開発センター
後 援：大阪府立中央図書館
*日本万国博覧会記念基金助成事業



〈関連イベント〉

「おはなし会
世界の国からこんにちは」

開催日：平成27年7月20日（月）祝
おはなし会2回
出 演：おはなしポップ
参加者：97人

ワークショップ
「ことばあそび絵本をつくろう」

開催日：平成27年7月24日（金）
講師：土居安子（当財団職員）
参加者：22人

「のりものだいすき
おはなしだいすき」

貸切モノレールの中でおはなしを楽しみ彩都西の会場で人形劇を観る「おはなしモノレール」を実施しました。平成27年度で9回目となります。

開催日：平成27年9月13日（日）
定 員：240人
出 演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと等

協 賛：大阪高速鉄道株式会社、阪急不動産株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション
*子どもゆめ基金助成事業



目録
童話と絵本のグランプリ

アマチュア作家を対象にした創作童話と絵本のコンクール「第32回日産童話と絵本のグランプリ」を実施しました。審査の結果、入賞作品38編を決定しました。

○応募数 童話の部2,414点、絵本の部464点 計2,878点
○童話の部 大賞
「日曜日の小さな大冒険」
愛川 美也さん

絵本の部 大賞
「ちかしつのなかで」
横須賀 香さん

○表彰式 平成28年3月13日（日）
日産自動車グローバル本社
協 賛：日産自動車株式会社
また、第31回童話の部大賞および絵本の部大賞作品をBL出版から平成27年12月に出版しました。

童話の部 『タンポポの金メダル』
山本 早苗 / 作
青井 芳美 / 絵

絵本の部 『せかいのはてのむこうがわ』
たなか やすひろ / 作・絵

子どもに本を 手渡す人のために

●講座への講師派遣

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員、保護者や子どもに本に関心のある人等を対象とした、本の選び方や読書活動のあり方に関する研修や、本の楽しさを伝える講座、講演会、読書会の講師として、主任専門員、特別専門員を派遣しました。

●実施回数：34回

●審査員・委員など

左記の事業に、審査員や委員として参加しました。

- 第11回大阪子ども「本の帯創作コンクール」
- 第25回賞面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市教育委員会・人と本を紡ぐ会）

●平成27年度「心の輪を広げる体験作文」審査委員会（大阪府福祉部）

●第34回人権啓発詩・読書感想文審査委員会（大阪府民文化部）

●「コープのえほんでスマイル」専門委員会（大阪いずみ市民生活協同組合） 他

子どもたちに おはなしの楽しさを

●大阪府立中央図書館との連携

大阪府立中央図書館子ども資料室でおはなし会6回、人形劇1回を開催しました。

出 演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと

●絵本づくりワークショップ

「森こともたちになろう！」

（森の絵本づくり）
開催日：平成27年10月24日（土）
25日（日）
場 所：大阪府立少年自然の家

●小学校や図書館でのおはなし会やワークショップ

吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会（2回）

出 演：職員、おはなしポップ

●豊中市立東丘小学校等での小学生を対象とした、物語体験ワークショップ（3回）

●児童養護施設でのおはなし会

大阪府域の児童養護施設2カ所でおはなし会を開催しました。

出 演：おはなしポップ

●「日中韓子ども童話交流2015」に参加し、日本、中国、韓国の子どもたちと一緒に絵本作りをしました。

開催日：平成27年8月16日（日）
23日（日）

場 所：東京・新潟

参加者：100名
主 催：日中韓子ども童話交流事業実行委員会

●「おはなしポップ」と「人形劇サークルぱれっと」の財団事業への参画

子どもと本をつなぐさまざまな事業に当財団所属のボランティアグループに参画していただきました。

また、「おはなしポップ」は、

絵本やおはなしに関する研修を3回「ぱれっと」は講師を招いた研修を2回行いました。



●街頭紙芝居の公演と講演会 「関西マンガ界の伝説酒井七馬とその時代」

開催日：平成27年12月12日（土）

場 所：大阪府立中央図書館

講 師：中野晴行（京都精華大学 客員教授）

出 演：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

主 催：大阪府立中央図書館国際児童文学館、当財団

協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館



●「ほんナビきつず」はインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムです。

キーワード、あらすじは当財団で独自に作成。27年度は1005冊の本を追加しました。

共同開発：株式会社富士通システムズ アプリケーション&サポート

「ほんナビきつず」はインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムです。

キーワード、あらすじは当財団で独自に作成。27年度は1005冊の本を追加しました。

共同開発：株式会社富士通システムズ アプリケーション&サポート

●ドキドキ絵本づくり for Kids

平成25年度に開設した、インターネットを見ながら絵本の作り方を体験

することができているウェブサイトに「ドキドキ絵本づくり for Kids」について、チラシの配布や、ワークショップ等を通して普及を行うと同時に、子どもの作品のアップロードを行いました。



●本の海大冒険の充実

平成26年度にリニューアルしたインターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」に新刊図書のデータを追加し、いっそこの充実を図りました。



●子ども読書活動の推進のために

大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第2次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内の子ども読書活動推進のため、「社会教育委員会協議」(3回) および「大阪読書活動推進ネットワークフォーラム企画運営委員会」(2回) に委員として参加しました。

内容 もりだくさん！ メルマガ発行、 ぜひ会員登録を

毎月メルマガガジンを発行しています。発行は、月1回、毎月20日頃に配信しています。登録は無料です。皆さまの登録をお待ちしています。

平成28年7月20日現在、登録数は2019人です。内容例は左記のとおり。

1 お知らせ
財団からのお知らせコーナー

2 コラム
新刊書の紹介
専門職員が理事長、児童文学者と毎月一冊の本を選んで対談します。本に対する新しい見方が発見できます。

3 児童文学作家や作品についてのエッセイ
宮沢賢治作品などについて興味深いポイントや、理事長と専門職員が交互に紹介します。

4 読書活動ボランティアのためのワンポイント
読書活動を行っているボランティアさんのための連続講座。絵本の選び方、読み方など、基本的なポイントを説明しています。

5 行って来ました！
展示会や映画、講演会など、子どもの文化に関わる催しのレポート

6 全面的イベント紹介
他団体等が実施するイベントを紹介

7 プレゼント
今号でとりあげた本やイベントグッズを抽選でプレゼントします。

共同研究を行いました

●近代日本児童出版文化史の研究

—明治期における博文館出版文化の内容と特質—

博文館の児童出版文化についての調査研究を外部研究者とともに行いました。

●研究会の開催（4回）

・ラウンドテーブル（平成27年11月8日）日本児童文学学会第54回研究大会、於：大阪教育大学

「博文館の児童出版物がめざしたも—明治期における出版、教育、雑誌メディアの視点から—」

浅岡邦雄（中京大学教授）

岩田一正（成城大学准教授）

遠藤 純（当財団特別専門員）

*内容の詳細は『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第29号を「参照ください」。

・『大阪国際児童文学振興財団研究紀要第29号』掲載（論文1本、ラウンドテーブル報告3本）

・研究メンバー：浅岡靖史（日本児童教育専門学校教員）、酒井晶代（愛知淑徳大学教授）、目黒強（神戸大学准教授）、遠藤純（当財団特別専門員）／華頂短期大学准教授・研究代表者、小松聡子（当財団特別専門員）、土居安子（当財団主任専門員）

*独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業「基盤研究（C）平成26～28年度

論文集

『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』第29号の発行

今号も、大阪府立中央図書館国際児童文学館の資料を活用した研究論文を公募しました。2名の応募があり、論文2本を採用しました。

目次

明治期における〈言談小説〉の排除と包摂—教育雑誌を中心に—

目黒強

プロコフィエフ『ピターと狼』の「ソ連のおとぎ話」としての一断面

菊間史織

「少年少女譚海」（博文館）の内容と特質—他誌との比較を通して—

土居安子

ラウンドテーブル

「博文館の児童出版物がめざしたも—明治期における出版、教育、雑誌メディアの視点から—」

明治期博文館の児童向け出版物

浅岡邦雄

「少年世界」が提示した少年像—国語読本との比較を中心に—

岩田一正

『少年世界』主筆としての巖谷小波—その編集者意識について—

遠藤 純

〈国際プリム賞受賞記念講演〉

Before and Beyond Words About Pictures: Picture Books and Picture-Book Studies, Then and Now

Perry Nodelman

「わが著『絵本論』を超えて—絵本と絵本研究の過去・現在・未来—

ペリー・ノードルマン

翻訳：松下宏子

出版や展示の企画を行いました

貴重な資料の複製や作家選集

論文集など児童文学・児童文化に関する各種出版事業の相談に応じています。

●進研ゼミ電子図書館

株式会社ベネッセコーポレーションから受託し、選書の支援を行いました。

●出版社等による企画協力業務の受託「コープのえほんでスマイル」

大阪いずみ市民生活協同組合から受託し、絵本選定、ガイドブック原稿作成を行いました。

●BS朝日開局15周年特別番組

「黒柳徹子のコードモノクニ—夢を描いた芸術家たち—」

（平成27年4月～28年3月）毎週水曜夜10時～11時放送の番組制作企画協力を行いました。

●財団発行資料

「2015年度国際交流事業報告集 国際講演会イギリスの絵本作家エミリー・グラヴェット—絵に生きる—子ども向け絵本づくりワークショップ」 1000円

「フォーラム報告集「児童文学とは何かを問い続けて—児童文学者鳥越信の仕事を探る—」1000円

「2013年度国際交流事業報告集 絵本作家ローレン・チャイルド 自作を語る—あたしのなやみは無敵大—子ども向け絵本づく

りワークショップ」 1000円

「2011年度国際交流事業報告集 オーストラリアの絵本の魅力 ショーン・タン 自作を語る／子ども向け絵本づくりワークショップ」 1000円

「2010年度国際交流事業報告集 アジアの絵本シンポジウム 絵本は国境を越える—中国語圏の絵本の現在—」 500円

「国際児童文学館紀要」1号～26号 1000円～1900円

「大阪国際児童文学振興財団研究紀要」27号、28号、29号 1300円～1400円

論文集「台湾の絵本」、「タイの絵本」、「インドの絵本」、「中国の絵本」など多数あります。ご希望の方はお問い合わせください。（価格は税別）

資料を販売しています

「リワークショップ」 1000円
「フォーラム報告集「子どもの文学と文化を問い続けて—児童文学者中山正文の仕事を探る—」 1400円

「2012年度国際交流事業報告集 絵本作家アイヴィッド・ウィズナーの世界 絵は物語る／子ども向け絵本づくりワークショップ」 1000円

「2011年度国際交流事業報告集 オーストラリアの絵本の魅力 ショーン・タン 自作を語る／子ども向け絵本づくりワークショップ」 1000円

「2010年度国際交流事業報告集 アジアの絵本シンポジウム 絵本は国境を越える—中国語圏の絵本の現在—」 500円

「国際児童文学館紀要」1号～26号 1000円～1900円

「大阪国際児童文学振興財団研究紀要」27号、28号、29号 1300円～1400円

論文集「台湾の絵本」、「タイの絵本」、「インドの絵本」、「中国の絵本」など多数あります。ご希望の方はお問い合わせください。（価格は税別）

資料のご寄贈をありがとうございました

今年度も出版社、作家、研究者同人誌サークルなどから、児童書や児童書に関する資料などの寄贈をいただきました。これらの資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継ぎました。

（ご寄贈いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください）

図書 4,209冊
雑誌 2,898冊
その他資料 912点
計 8,019点

寄付金募集のお願い!

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。ご協力をお願いします。

◆ゆうちょ銀行振替口座に払い込みください。

〇〇〇〇〇〇

加入者名

一般財団法人大阪国際児童文学振興財団

※他の金融機関からの振込の場合

店名：〇九九店（ゼロキョウキョウ）

店番：099/預金種目：当座/口座番号：02822098

◆平成27年度は、125万円

1,801,180円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。（ご寄付いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください）

編集後記

「大阪国際児童文学振興財団レポート第6号」をお届けいたしました。当レポートでは、平成27年度に実施しました主な事業を掲載しています。公式の事業報告、決算報告はホームページで公開しています。

図書資料の寄贈・寄付金・各種の事業協力など、皆さまの支援・ご協力が深く感謝いたします。引き続き皆さまのご支援をお願い申し上げますとともに、当財団の運営について、忌憚のないご意見をお願い申し上げます。